

葛川小中学校だより

葛川小・中学校 学校だより 令和2年 5月号 在籍児童・生徒数 35名 5月21日発行

休校措置から……学校のあり方

私たちは、葛川小・中学校の児童・生徒が、元気に登校し、授業を受けて、他の子どもたちと互いに影響を及ぼしながら生活していくことを「あたりまえ」として日常を送ってきました。静まりかえった校舎の中でこれまで、子どもたちがくれたエネルギーが如何に尊いものであったことをあらためて思い知らされた今年度のスタートでした。そして、私たち教職員は、登校できない子どもたちに何ができるのかを、子どもたち一人一人に思いをはせながら、自らに問いかけ、できることから始める貴重な時間でした。

学校が再開すれば、感染リスクを最小限に抑えながら、日常を取り戻すべく取組が進められます。失われた授業内容の確保や延期された行事の実施について、国や県、市の方針に基づいて検討することになります。感染症の第2波の問題や新たな難問が将来やってくることも想定に入れる必要があります。

新しい変化に対して、未知の状況にも対応できる力をつけるために、また、時代の新しい流れに対して柔軟に、大胆に対応していくために、「これまでのあたりまえ」を大きく見直す時期にきていると思います。学校を預かるものとして、その責任の重さを痛感しています。



児童・生徒のみなさんへ

休校が続く、例年とは違う生活に戸惑っている人も多いのではないのでしょうか。今回の休校は、皆さんの健康と命を守るために取られた重要な措置です。このことをしっかり理解して、日常の検温や手洗い、咳エチケット、マスク着用など、感染症対策を徹底してください。十分な睡眠、適度な運動やバランスのとれた食事を心がけ抵抗力を高めることも大切です。

2つ目は、家庭学習にしっかり取り組もうということです。学校からの課題に取り組んだり、この機会にしかできないことに取り組んだりしてほしいと思います。計画的に学習を進める習慣を身につけておくと、学校再開後も生かすことができます。

3つ目は、家庭で過ごす時間を大切にしようということです。家族で過ごす時間や話す機会が増えている人もいます。この機会に、今、興味を持っていることや悩んでいることなど、いろいろ話し合っしてほしいと思います。今までの自分を一歩進め、向上させる機会にできたら良いと思います。



ツバメの巣：今年の春は…

新型コロナウイルスの影響は、ツバメたちにも及びました。葛川小・中学校の昇降口付近の壁には、毎年小・中学校ともに多くのツバメの巣が作られ、雛（ヒナ）たちが巣立っていく光景を目にすることができます。5月のある日、例年のごとく巣づくりを終えたツバメたちの様子がおかしいことに気がつきました。驚いたことに巣ごと壊されていました。犯人はおそらくヘビでしょう。調べてみると、次のようなことが分かりました。



ツバメの3大天敵はカラス、ネコ、ヘビです。カラスはツバメの巣を定期的に見回り、雛が孵ったところを見計らって襲うという知恵を持っています。ネコは、巣が高いところになるので、近くにある台などからジャンプして襲ったり、低空で飛ぶ親鳥を襲ったりします。ヘビは壁をつたって卵を狙います。ツバメが人目につきやすい場所に巣を作るのは、巣や卵や雛を天敵から守るため、人間をガードマン代わりに利用しているからです。人がいつもいるところ、人の出入りが多いところでは、巣を襲う天敵が近づかないことから、力の弱いツバメは人間の近くで巣を作るようです。



ところが、4月、5月といつもいるはずの子どもたちの姿がないことから、天敵が警戒することなく巣を襲ったと考えられます。悲しい出来事に心を痛めました。今は、なんとツバメたちがもう一度巣作りに挑戦しています。私も巣の周りを通るようにしています。登校日、そして授業再開となれば、にぎやかな学校生活がもどり、いつものように雛の姿を見ることができのではないかと期待しています。

空き家には、ツバメは決して巣を作らないといわれています。この葛川小・中学校が、ますますにぎやかな学校になるように、小規模特認校3年目として、一人でも多くの子どもたちに「選んでもらえる学校」になるために、保護者や地域の願いを受け、安心して通学できる学校になるために、知恵を結集していこう、と決意した春の出来事でした。